

様式（第3条関係）

東京都北区とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都北区赤羽 3-23-7
園名	岩淵保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・『自然』とは何かを考える。
- ・『自然』に触れる。

<テーマの設定理由>

・昨年、幼児クラスに上がったこのクラスは遊びの中に『自然』が密接にかかわるようになってきた。また、自園の園庭においても季節の移り変わりを感じられ、荒川の土手や植栽が美しい大きな公園にも近く、『自然』に触れる機会が多くあるため。

2. 活動スケジュール

- ・来年度も含めた活動を計画。まず今年度は『自然』について考える機会が生まれるように、『自然』と関わる活動を行っていく。また、その中で季節も感じられるようにしていく。
- ・自然に興味、関心が湧いてきたところで飼育、栽培の活動を取り込み、移り変わる姿を通して、自然と時間は関係していることを感じられるようにする。
- ・自ら自然を採取し、世話をするきっかけづくりをする。
- ・自然への興味が増し、子ども達から自然と関わる活動の提案が出てくるようになる。

3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

- ・カブトムシ（幼虫→成虫→卵）
- ・栽培物（なす、オクラ、さつまいも）
- ・廃材を利用したドングリ入れ

4. 探究活動の実践

〈活動の内容〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

- ・ 戸外散歩による戸外活動。
- ・ 季節を感じられる自然物に触れる。
- ・ 栽培物の育成、管理。
- ・ 飼育物の世話。
- ・ 絵本や図鑑などの媒体を使い自然について考える機会を設ける。

- ・ 公園に着くと自然物を探す姿が多く見られるようになり、絵本や図鑑などを通して得た知識で友達と一緒に推測し合う姿が見られた。
- ・ 栽培物を育てる中で「僕の身長より大きくなった」と具体的に時間の進みと自然の移り変わりが関係していることを経験する機会があった。保育者は「4月の終わりから大切に育ててきたからだよ」と月日が経過していることも意識できる声掛けを行う。
- ・ 飼育物のカブトムシが幼虫→蛹→成虫→卵→幼虫のサイクルをたどる姿を間近に見る事が出来、「次の夏にまたカブトムシになるね」と自然の中にいる生き物に変化がある事を知る。



5. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

・ 4歳児になり物事への興味、関心が深くなり、「これって何?」「どうしてこうなるの?」などの問いが必然的に増えた。その中で、『自然』をテーマにしたことで「自然ってなに?」という考えを持つようになった。戸外での普段の遊びの中や当番として行ったカブトムシの飼育活動や野菜の栽培活動を通して、自然を肌で感じ「これが『自然』というものなのかな?」と4歳児なりの活動成果を喜ぶ子どもたちの姿があった。また、カブトムシや栽培物を育てた経験から、自然には時の流れが関係していることにも気付く児もいて「あと何日でなすができるかな?」「冬だから雪が降るのかな?」等の言葉が見られるようになった。また、自然を活かした活動を行ったことでは、生命の尊さについて考えるきっかけとなったり、食べ物を残さずに食べることの大切さを実感したり、友だち思いやり協力をして何かを成し遂げる、という事も経験できたと思う。今後も子どもたちからの発信を見逃さず、その声を拾い上げ、さらなる発見が得られるように援助していきたい。